

令和元年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第73回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

令和元年6月1日(土) Bブロック 2回戦 鐘山スポーツセンター総合体育館 Cコート 第5試合

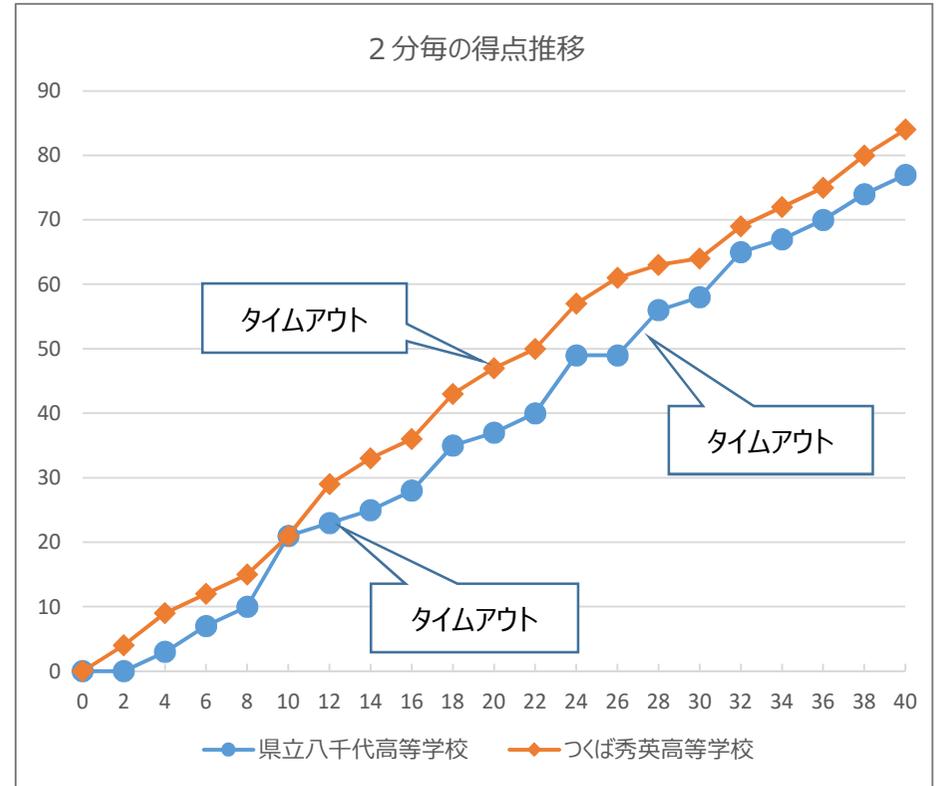
チームA		21	1st	21	84	チームB
県立八千代高等学校 (千葉県)	77	16	2nd	26		つば秀英高等学校 (茨城県)
		21	3rd	17		
		19	4th	20		
		OT				

Aチーム： 県立八千代高等学校

	S	No.	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS		
					M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT
1	*	4	松岡 里樹	3	0	0	1	5	1	1	1	2	1	3
2	*	5	阿部 颯太	7	2	5	0	1	1	2	2	1	0	1
3	*	6	新井 理久	20	2	5	6	12	2	3	0	0	3	3
4		7	安部 大毅	10	0	0	5	15	0	2	4	1	2	3
5		8	富田 祥希	2	0	0	1	3	0	0	2	4	2	6
6		9	蓬田 一星	17	3	6	3	7	2	4	1	0	3	3
7	*	10	松下 真也	13	3	6	2	4	0	0	1	1	4	5
8		11	酒井 郁志	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
9		12	渡辺 昂暉											
10		13	浅野 海斗											
11		14	下田 嶺多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	*	15	坂田 空	2	0	0	1	2	0	0	1	0	2	2
13		16	品川 陽平											
14		17	宮原 峻祐	1	0	0	0	2	1	2	0	1	1	2
15		18	金子 紘弥											
HC/TEAM			藤橋 洋輔											
合計				77	10	22	20	52	7	14	12	10	18	28

Bチーム： つば秀英高等学校

	S	No.	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS		
					M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT
1	*	4	安藤 匠汰	9	1	2	3	3	0	0	2	3	2	5
2	*	5	山本 魁	13	0	2	5	9	3	4	1	4	9	13
3		6	飯塚 竣平	11	0	0	5	7	1	2	0	2	5	7
4	*	7	柴田 大樹	20	0	0	10	20	0	1	3	5	10	15
5	*	8	根本 大	9	3	4	0	2	0	0	5	0	2	2
6		9	鈴木 大樹											
7	*	10	齋藤 雄都	19	0	0	8	13	3	4	2	0	2	2
8		11	鈴木 治輝											
9		12	南雲 小徹											
10		13	渡邊 洵也	3	1	6	0	1	0	0	1	0	2	2
11		14	小川 翔平											
12		15	山口 大輝											
13		16	安田 慎ノ助											
14		17	目良 健											
15		18	勅使河原 広希											
HC/TEAM			稲葉 弘法									2	3	5
合計				84	5	14	31	55	7	11	14	16	35	51



戦評

記者：宮下 敏治 (山梨県高体連)

1 Q：両チームハーフコートマンツーマンでゲームが始まる。ゆっくり丁寧に攻撃を組み立てていく秀英に対してなかなかリズムが掴めない八千代であったが、メンバー交代を行いながら徐々に攻撃スピードを上げ、#10のドライブ、#13、#16の3 Pで得点を重ねる。大きな動きがないまま、21-21の同点で1 Qを終了。

2 Q：開始早々バスケットカウントで得点をあげた秀英、その勢いそのままオールコートマンツーマンを仕掛けてペースを握ると連続得点で少しずつ差を広げていく。八千代も負けじとディフェンスで相手のミス誘いを#5、#9の連続3 Pで追いつくも、落ち着いて攻撃を組み立て、加点した秀英が47-37でリードし、2 Qを終了する。

3 Q：秀英#4、#8の3 Pがリズム良く決まり八千代が苦しい状況となるが、ディフェンスをオールコートゾーンプレスとして流れをつかみにかかり、#9の3 Pを含む連続得点で差を縮めていく。しかし秀英#7が落ち着いたプレーでバスケットカウントを決める。ペースを掴みきれない八千代がタイムアウトで呼吸を整えると#10が奮起し得点を重ね、秀英64-58八千代で3 Qを終了。

4 Q：3 Qで良い終わり方をした八千代が積極的なディフェンスから得点を重ね試合展開に勢いが出るも、秀英がペースをダウンし落ち着いてゲームを展開していく。最後まで諦めずゴールを目指した八千代であったが力及ばず、84-77で秀英が勝利をおさめた。

主審	第1副審	第2副審
佐田 幸一 (山梨県)	平山 智章 (栃木県)	箱石 拓也 (埼玉県)